

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度	科目名	演習 2	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	MAエンジニア専攻	開設期	後期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	瀧口		実務経験の有無・職種	有・エンジニア	
学習目的					
現場で必要になる技術、知識を学びエンジニアとしての基礎を身に付ける。また、MA実習で使用する映像素材制作を行うことにより映像作品制作の企画、収録、編集、MAといった一連の流れを理解し作品制作を行う上でのポイントを理解し、映像に対して音響による表現力も養う。また、映像素材の制作を行うことで映像収録、映像編集等についても学び幅広い技術、知識、就職への対応ができるようになることを目的とする。					
到達目標					
音響だけではなく映像コンテンツの企画制作の流れを理解し、コンテンツ制作ができる力をつける。またコンテンツを企画制作することで人に伝えるプレゼンテーションスキルを身に付ける。コンテンツ制作に必要なアプリケーション(Word、Excel、Adobe PremierePro、Illustrator、Photoshopなど)の操作も習得し幅広い作業に対応できるようになり就職に活動に活かせるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	テキストは毎回配布する資料の空欄を授業中に埋めることにより完成する。プロジェクター、音響機器を使用し資料、素材映像等の説明をする。また、配布資料の静止画では分かりづらい物は動画を制作しYouTubeにアップしいつでも確認できるようにしている。授業が一方通行にならないように課題を出し適宜質問等をする。理解度確認のため定期的に小テストを行い解説する。				
注意点	素材、課題を与えてP Cによる作業が多くなる。数週にわたる課題、グループワーク等もあるので欠席をすると授業を理解しにくくなり、仲間に迷惑をかけてしまうので欠席はしないように。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	35%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	15%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	映像制作の流れ		映像作品制作の流れを理解し自分が担当する仕事のポジションが理解できる。		
2 回	ポストプロダクションの仕事		ポストプロダクションの仕事を理解できる。		
3 回	MA と言う仕事		映像作品制作の中でのMAの仕事を理解できる。		
4 回	ロケーション		ロケに必要な機材を理解し使うことができる。		
5 回	Word,Exele		企画、企画書の意味、役割を理解し企画書の制作ができる。		
6 回	企画書制作		映像作品を制作するために紙の上で絵コンテにより表現ができる。		
7 回	絵コンテ制作		作品制作のための絵コンテ制作ができる。		
8 回	台本制作		作品制作のための台本制作ができる。		
9 回	Pro Tools 1		MA で良く使用される操作ができる。		
1 0 回	Pro Tools 2		MA で良く使用される操作ができる。		
1 1 回	CM制作1		15秒CMの企画ができる。		
1 2 回	CM制作 2		15秒CMの台本が制作できる。		
1 3 回	CM制作 3		15秒CMの映像素材を制作できる。		
1 4 回	CM制作 4		15秒CMの映像編集ができる。		
1 5 回	CM制作 5		15秒CMの映像編集ができる。		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	演習2	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	レコーディングエンジニア専攻	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料プリントを配布する。項目によってHDD、ヘッドホンなど。				
担当教員情報					
担当教員	鎌田・三好・山崎		実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア	
学習目的					
実習2との連動科目。レコーディングミキサー卓の基本スタイルの取り扱いを覚えながら、信号の流れを理解する。今期ではポータブルミキサーを使いながら旧来のスピリットコンソール、そしてインラインコンソールへと変化していった過程を追いながら音声信号の流れと処理を理解していく。操作とその意味をしっかりとイメージできるようになることを目的とする。また、レコーディングエンジニアへ進路を取っていく学生に取ってはスタジオ研修時の基本となる行動や姿勢も学んで行く。					
到達目標					
アナログ卓とデジタル卓の違いを操作、仕組みとともに理解していく。近年はProToolsを基本としたレコーディングシステムがスタジオの基本となっており、ProToolsとミキサー卓の繋がり方を理解しながら様々な音の流れを理解し、基本的な録音操作ができるようになることを目標とする。また、アーティストとのコミュニケーションを取りながらチームで作品を作っていく姿勢も学んで行く。					
教育方法等					
授業概要	基本はプリント資料を適時配布するが、各自で実習専用のメモ帳を用意すること。この講義は実習2と連動した科目である。実際のスタジオワークの手順、ミキサー卓の操作などを理論立てて理解し、実習2を効率よく実施するための予習や復習となる。音の流れと電気の流れをイメージしやすくしておくことにより、音が出ないなどのトラブルにも素早く正しく対応できるようになることを目指す。項目によっては班ごとに順番を入れ替えることもある。				
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する。		
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	デジタル卓マスターモジュール		デジタル卓マスターモジュール、マイクの立ち上げができる。		
2回	マイク・DI・ケーブル		マイク・DI・ケーブルの役割についてわかる。		
3回	譜面の見方・カウンター		Protools、譜面の見方・カウンターの取り方などスタジオワーク全般がわかる。		
4回	Rec mode回線①		Rec mode回線①スプリット型コンソールの思想ついてわかる。		
5回	SSL4000E①		SSL4000E① マスターモジュールを扱うことができる。		
6回	SSL4000E②		SSL4000E②I/Oモジュール(Rec Mode)についてわかる。		
7回	SSL4000E③		SSL4000E③パッチベイ・マトリックス(Rec Mode)を操作できる。		
8回	SSL4000E④		SSL4000E④ マルチトラック録音、ProTools(Rec Mode)がわかる。		
9回	SSLまとめ		SSL全体の音の流れがわかる。		
10回	ボーカルセッティング		ボーカルセッティングができる。		
11回	デジタル卓①		デジタル卓の基本の考えがわかる。		
12回	デジタル卓②		デジタル卓の基本操作がわかる。		
13回	各ミキサー卓まとめ		レコーディング前の復習でシステムがわかる。		
14回	リズムレコーディング		リズムレコーディングセッティングがスムーズにできる。		
15回	SSL4000E(Mix mode)		ミックスモードの流れ、操作ができる。		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度	科目名	演習 2	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	ラジオスタッフ専攻	開設期	後期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料プリントを配布する。項目によってHDD、ヘッドホンなど。				
担当教員情報					
担当教員	瀧口		実務経験の有無・職種	有・エンジニア	
学習目的					
番組制作で必要になる技術、知識を学びディレクター、エンジニアとしての基礎を身に付ける。ラジオディレクターが映像作品を制作することも増えてきている現状で、演習において映像制作を行うことにより映像作品制作の企画、収録、編集、MAといった一連の流れを理解し作品制作を行う上でのポイントをつかみ、映像に対して音響による表現力も養う。また、映像素材の制作を行うことで映像収録、映像編集等についても学び幅広い技術、知識の習得と就職への対応ができるようになることを目的とする。					
到達目標					
音響だけではなく映像コンテンツの企画制作の流れを理解し、コンテンツ制作ができる力をつける。またコンテンツを企画制作することで人に伝えるプレゼンテーションスキルを身に付ける。コンテンツ制作に必要なアプリケーション(Word、Excle、Adobe PremierePro、Illustrator、Photoshopなど)の操作も習得し幅広い作業に対応できるようになり就職活動にも活かせるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	テキストは配布する資料の空欄を埋めることにより完成する。プロジェクター、音響機器を使用し資料、素材映像等の説明をする。また、配布資料の静止画では分かりづらい物は動画を制作しYouTubeにアップしいつでも確認できるようにしている。授業が一方通行にならないように課題を出し適宜質問等をする。理解度確認のため定期的に小テストを行い解説する。				
注意点	素材、課題を与えてP Cによる作業が多くなる。数週にわたる課題、グループワーク等もあるので欠席をすると授業を理解しにくくなった り、仲間に迷惑をかけてしまうので欠席はしないように。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	35%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	15%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	番組4制作の流れ		番組作品制作の流れを理解し自分が担当する仕事のポジションが理解できる。		
2 回	映像作品制作の流れ		ポストプロダクションの仕事を理解できる。		
3 回	音と映像		映像作品制作の中での音響の仕事を理解できる。		
4 回	ロケーション		ロケに必要な機材を理解し使うことができる。		
5 回	Word,Exele		企画、企画書の意味、役割を理解し企画書の制作ができる。		
6 回	企画書制作		映像作品を制作するために紙の上で絵コンテにより表現ができる。		
7 回	絵コンテ制作		作品制作のための絵コンテ制作ができる。		
8 回	台本制作		作品制作のための台本制作ができる。		
9 回	Pro Tools 1		編集で良く使用される操作ができる。		
10 回	Pro Tools 2		編集で良く使用される操作ができる。		
11 回	CM制作1		15秒CMの企画ができる。		
12 回	CM制作2		15秒CMの台本が制作できる。		
13 回	CM制作3		15秒CMの収録ができる。		
14 回	CM制作4		15秒CMの編集ができる。		
15 回	CM制作5		15秒CMの編集ができる。		